

平成26年度全国学力・学習状況調査

朝来市の小学6年生と中学3年生の 学力と学習状況の分析結果

調査の概要

平成26年4月22日（火）実施

この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが目的です。今年度も昨年度に引き続き、悉皆調査として文部科学省によりすべての小・中学校が対象としてこの調査が実施されました。



調査の内容

- 教科に関する調査
国語、算数・数学
「知識」に関する調査
「活用」に関する調査
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
児童生徒に対する調査
学校に対する調査

学力調査の結果

■ **小学生** 全国・県平均と同様

■ **中学生** 全国・県平均と同様

小学生各教科の結果

国語

知識問題…正答率は、全国や県平均と同様

活用問題…正答率は、全国や県平均と同様

漢字の読み書きなどの「知識」については、定着傾向がみられました。その一方で、物語の登場人物の心情描写を捉えることに課題が見られます。また、討論を行う際に、話し合いの観点を整理したり、質問の意図を捉えたりすることに課題があり、指導の充実が求められます。

よい傾向の内容

- 漢字を正しく読む、書くことができる。
- 話し合いの観点に基づいて情報を関連付けることについては、相当数の児童ができています。
- 目的に応じて話し合いの観点を整理することについては、相当数の児童ができています。
- 詩の解釈における着眼点の違いを捉えることに関しては、ある程度の児童ができています。

課題のある内容

- 故事成語の意味と使い方を理解すること
- 情景描写の効果を捉えること
- 新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えること
- 主張の中で述べられていない事柄を詳しく聞き出すという意図を捉えること
- 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えること

指導改善のポイント

- 故事成語を自分の表現に活用することが重要である。そのために、自分の興味や関心に合った故事成語を取り上げて、物語を作ったり、四コマ漫画を描いたりする活動が考えられる。
- 物語の表現方法として、具体的には、登場人物の心情などについて、直接的に描写されているものだけでなく、登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、

情景などを通して暗示的に表現されているものもあることを捉えることができるように指導することが考えられる。

□投書における「書き出し」「文末表現」「内容構成」などの工夫を捉えることができるように指導することが重要である。具体的には、複数の投書を比べて読むことで、様々な表現の工夫を捉えることができるように指導することが効果的である。

□話し手の目的や意図は何か、伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなどといった観点に基づいて、相手の話の内容を十分聞き取ることができるように指導することが考えられる。その際、必要に応じてメモを取るようにし、取り上げた内容について、自分の考えとの共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理した上で、自分の考えをまとめるように指導することが考えられる。

□詩の内容や表現の工夫を捉えることは、言葉の使い方に関する感覚を豊かにする上で重要である。そのためには、比喩、反復、擬態語、擬声語などの表現や、常体と敬体との違い、表現の仕方、連の構成などについて、具体的な事例を示しながら指導することが大切である。その際、一編の詩だけでなく同じ作者の作品や同じ題材の作品を集めて、複数の詩を比べて読むことで、多様な表現の工夫に気づくことができるように指導することが考えられる。

算数

知識問題…正答率は、全国や県平均と同様

活用問題…正答率は、全国や県平均にやや劣る

知識・理解に関して

数量や図形についての知識理解については、おおむね満足ができます。中でも、「円周の長さを、直径の長さを用いて求めること」や「二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すこと」は、全体的に定着傾向が見られています。

しかし、数と計算、量と測定における数量や図形についての知識理解に課題がみられました。その中でも特に「単位量当たりの大きさの求め方」や「体積の単位と測定についての理解」に課題が見られます。

よい傾向の内容

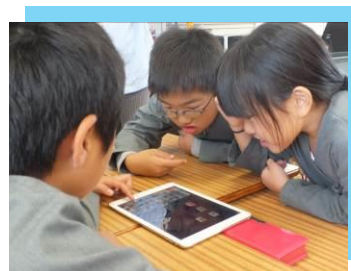
- 正五角形の1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cmとしたときの、□と△の関係を正しく表している式を選ぶことができる。
- 減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる。
- 円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる。

課題のある内容

- 示された分数の中から、 $1/2$ より大きいものを選ぶこと
- 8 m^2 に16人いるAの部屋について、 1 m^2 当たりの人数を求める式を書くこと
- 1 cm^3 の立方体を基に、示された直方体の体積を求めること

指導改善のポイント

- 各学年で単位や公式を定着できるようにする。
- 各学年間で系統的な指導の繋がりを意識する。
- 具体物を使って、体験的な活動を取り入れる。



活用に関して

数量関係における数学的な考え方については、おおむね満足できます。中でも、「示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述すること」や「示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めること」は全体的に定着傾向が見られています。

しかし、数と計算における数学的な考え方と数量や図形についての知識理解において課題が見られます。特に、「10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係している図を選ぶこと」や「二人のリズムが異なる部分を、公倍数に着目して記述すること」や「示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択すること」に課題が見られました。

よい傾向の内容

- 6、7月の水の使用量 1500m^3 は、プールに入る水の量 250m^3 の何倍かを求める式と答えを書くことができる。
- 示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶことができる。
- 2人の説明を基に、 37×24 の積が888になることを書くことができる。

課題のある内容

- 2人の④のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書くこと
- 40人のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶこと
- 使いやすい箸の長さの目安を基に、適切な長さを表している図を選ぶこと

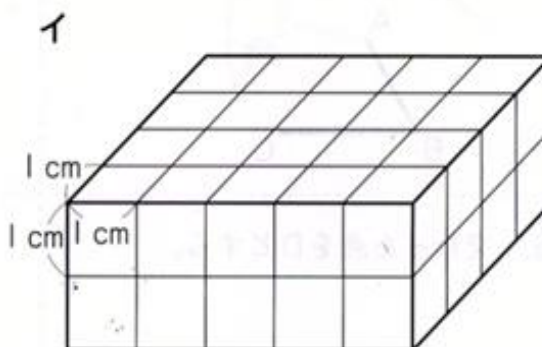
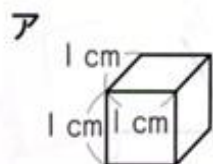
指導改善のポイント

- 問題解決に必要な基礎知識の定着できるようにする。
- 算数科における言語活動の充実を図るようにする。

小学6年生の児童が苦手とした問題（算数：知識・理解に関する問題）

(2) 下の図のように、アの立方体を使って、イの直方体を作りました。

イの体積は何 cm^3 ですか。答えを書きましょう。



中学生各教科の結果

国語

知識問題…正答率は、全国や県平均と同様
活用問題…正答率は、全国や県平均と同様

全国・県平均と同程度の学力でした。今後は、テーマに沿って深めるような話し合い活動をする、様々な条件を設定した記述式の問題を解くこと、語句の意味を的確にとらえること、多様な文学作品の学習において、優れた描写や文章表現の意味を理解すること、などについて指導を広げていく必要があります。

よい傾向の内容

- 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討することは相当数の生徒ができています。
- 必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出すことはある程度の生徒ができています。
- 抽象的な概念を表す語句が示すものについては、ある程度の生徒が理解できています。
- 表現技法については、相当数の生徒が理解できています。
- 登場人物の言動の意味を考え、その姿を想像することはある程度の生徒ができています。
- 複数の資料を比較して読み、要旨をとらえることはある程度の生徒ができています。

課題のある内容

- 話し合いの方向をとらえて司会の役割を果たすこと
- 登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること
- 文脈の中における語句の意味を理解すること
- 根拠を明確にして自分の考えを書くこと
- 文章に表れているものの見方について自分の考えを持つこと

指導改善のポイント

- 様々な話し合い活動を経験させることが必要である。例えば、テーマに沿って、共通点を確認し、出てきた相違点については、さらに質問をしたり、意見を交わしたりして、一つの答えを導き出すような深まりのある話し合い活動に取り組むことが考えられる。
- 文学作品の叙述の意味を考えさせたり、さまざまな時代背景を持つ文学作品の読書活動に取り組んだりすることで、文学作品特有の表現に慣れさせることが大切である。
- 語句の意味などを問う問題においては、雰囲気を選択肢を選ばずに、漢字に直して考えたり、普段の学習から辞書で意味を調べたりする習慣をつけておくことが大切である。
- 様々な条件作文を書く練習に取り組むことが大切である。その際、複数の条件を設定し、解答した後に条件を満たしているかを確認するなど、推敲する活動も効果的だと考えられる。
- 工夫や効果は、何なのかを的確にとらえるような学習活動に取り組むことが考えられる。

数学

知識問題…正答率は、全国や県平均にやや劣る
活用問題…正答率は、全国や県平均にやや劣る

知識・理解に関して

知識問題・活用問題とも全国や県平均よりやや劣ります。
記述式を苦手とし、無回答はやや多めでありましたが、できる範囲では取り組もうとする傾向が見られました。
正答率は、昨年度に比べるとやや上回っています。
活用問題に関して、誤答の中には正解まであと一歩のものが多く、演習を重ねる中で定着させる必要があります。

よい傾向の内容

- 正の数・負の数、文字式の計算問題ができる。
- 線対称な図形ができています。
- 等式の性質や移項の関係ができています。

課題のある内容

- 度数分布表から相対度数を求めること
(要因) 言葉の理解が十分でない。
- 与えられた角が回転移動した後の角を選ぶこと
(要因) 移動の様子が具体的なイメージとして描けていない。
- 関数の意味を理解できていないこと
(要因) ともなって変わる2つの数の関係が理解できてない。



指導改善のポイント

- 資料の活用に関して、演習時間の十分な確保、継続的な演習が必要である。
- 数学的な用語に関して、その意味や活用方法を反復学習して確実に定着させる。
- 学習の際に個人内言語で説明する言語活動を取り入れ、理解を深める学習の展開が必要である。

活用に関して

全国・県と比較すると無回答はやや多めであり、特に記述式の問題に対して不慣れな傾向がみられます。
知識の定着という点からしても、家庭学習を含めた学習時間の確保が必須です。

よい傾向の内容

- 図を見て空間における位置情報を読み取ったり表したりできる。
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
- ある場合の得点を、樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理することができる。

課題のある内容

- 付加された条件の下で証明を振り返って考え、事柄を用いて処理すること
(要因) 条件が変わっているにもかかわらず、改めて図を書きなおしていない。

- グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明すること
(要因) 無回答が多く、説明することに対して課題がある。
- 不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえ、判断の理由を説明することができること
(要因) 確率または場合の数の数値や用語に誤りが多い。

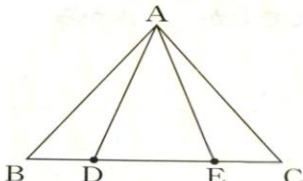
指導改善のポイント

- 学習の際に個人内言語で説明する言語活動を取り入れ、理解を深める学習の展開が必要である。
- 生徒の思考が具体物から抽象化しやすいように、具体物やICTの活用を多く取り入れる。

中学3年生の生徒が苦手とした問題 (数学：活用に関する問題)

【B問題】4 (2) 証明した事柄を用いて角度を求める。

4 下の図のように、 $AB = AC$ の二等辺三角形 ABC の辺 BC 上に
 $BD = CE$ となる点 D 、点 E をそれぞれとります。



(2) $\angle BAC = 110^\circ$, $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求めなさい。

(1) 証明の解答

$\triangle ABD$ と $\triangle ACE$ において、
 仮定より、 $AB = AC$ ・・・① $BD = CE$ ・・・②
 二等辺三角形の底角は等しいから、 $\angle ABD \equiv \angle ACE$ ・・・③
 ①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、
 $\triangle ABD \equiv \triangle ACE$
 合同な図形の対応する辺は等しいから、
 $AD = AE$

基本的な生活習慣について

小学生

多くの児童が基本的な生活習慣を確立させ、毎日規則正しい生活を送っています。学校では、きまりや約束を守り、学校に行くのが楽しいと感じています。また、家庭では学校での出来事を家族によく話しており、保護者も学校行事等に積極的に参加しています。学校の宿題はきちんと取り組んでいるが、テレビやビデオ、DVDを視聴する時間が若干多く、予習を含め休日の学習時間が少ない傾向です。

中学生

多くの生徒が基本的な生活習慣を確立させ、自分の目標を持つとともに家族、友だち、そして先生に支えられながら楽しく学校生活を送ることができています。また、地域とのかかわりが深く、積極的に地域の行事に参加をしています。ただ、パソコンや携帯電話等でインターネットをする時間が増えていることや自分で学習計画を立てることに課題が見られ、学習する時間が減ってきている様子が見えます。

■規則正しい生活を送る児童生徒が多い

- ほとんどの児童生徒が、起床時刻、就寝時刻が決まっている。
- 就寝時刻が遅い児童生徒の正答率は低く、学習への悪影響につながっている。

■朝食は、ほとんどの児童生徒が毎日とっている

- 朝食は、ほとんどの児童生徒が毎日とっている。
- 毎日朝食を食べ、毎日同じ時刻に就寝・起床している児童生徒は正答率が高い。
- 生活のリズムを崩さずに、規則正しい生活を送ることが、学力向上につながっている。

■ゲームやインターネットをする児童生徒が増えている

- 携帯電話・スマートフォンを持っていない児童生徒は、県・全国の割合より高い。
- ゲーム、携帯電話・パソコン等の使用時間が30分以内の児童生徒は正答率が著しく高い。
- 4時間以上すると回答した児童生徒の正答率は低い。

学習習慣について

よい傾向の内容

- ほとんどの児童生徒が、家庭で宿題に取り組んでいる。
- 家庭学習では、授業の復習を中心に取り組んでいる児童が多い。
- 予習、復習も含めて、自分で目標や計画を立てて学習する生徒の正答率が高い。

課題のある内容

- 家庭学習で、授業の予習に取り組んでいる児童は、全国平均を下回っている。
- 学校が休みの日に、家で1時間以上勉強している児童は、全国平均を下回っている。
- 1日に30分以上読書している児童は、全国平均を下回っている。
- 宿題以外の予習や復習をしている生徒は半数以下である。
- 自分で計画を立てて学習をする生徒が減ってきている。

人・地域との関わりについて

- 多くの児童生徒が、地域の行事に積極的に参加している。

- 児童生徒の保護者や家族の多くは、授業参観や運動会など学校行事に参加している。
- 地域や社会に関する興味・関心は高い。
- 新聞を毎日読んでいる生徒の正答率が高い。

児童生徒の意識について

よい傾向の内容

- ほとんどの児童が、物事を最後までやり遂げてうれしかったことがあると回答している。
- ほとんどの児童が、学校のきまりや友だちとの約束を守っている。
- ほとんどの児童が、人の気持ちの分かる人間、人の役に立つ人間になりたいと思っている。
- 児童の多くは、先生が自分の良いところを認めてくれていると思い、学校に行くのが楽しいと感じている。
- 多くの生徒は自分には良いところがあると思っている。
- ほとんどの生徒が校則を守り、行事などで達成感を感じている。
- 多くの生徒が将来の夢や目標を持って生活している。

課題のある内容

- 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する児童は、全国平均を下回っている。
- 友だちに伝えたいことをうまく伝えることができる児童は、全国平均を下回っている。

改善のポイント

- 難しいことでも諦めることなく、段階を踏まえて一つ一つ取り組ませる。
- コミュニケーション能力を高めるために、自分自身で伝えたい内容を整理し、理由をつけて話すことを習慣づける。

今後に向けて

今回の調査結果の分析から、朝来市の児童生徒の学力の定着については、小・中学校ともに改善傾向が見られています。昨年度の課題分析をもとに各校における授業改善の取組や家庭・地域の協力が成果に結びついたものと考えられます。

ただ、算数・数学において、主として活用を問う問題に対して小・中学校ともにやや苦手とする傾向が見られました。

今後は、知識の定着からも、家庭学習時間の確保が必須です。

また、昨年度同様本調査において、見直し・振り返り学習活動（授業冒頭で、めあて・ねらいを明確にし、授業の最後に学習内容を振り返る活動）を積極的に行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向が全国的に見られています。

朝来市においてもこのような具体的な授業改善を含め、児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善を図るため、従来から取り組んできた小中連携推進事業に加え、平成25年度より新たに、小小連携推進事業を実施しています。

これは、児童生徒の発達段階に合わせ、より適切で丁寧な指導を行うための取組です。

また、平成26年度から文部科学省の指定事業に授業のユニバーサルデザイン化モデル研究事業と英語教育強化地域拠点事業の指定を受け、市内小・中学校の数校をモデル校に指定し、研究をすすめています。この事業により、全ての子どもたちに分かりやすい授業づくりに努め、英語力の向上だけでなく、学力向上につなげる取組みを行っています。

平成27年度の本調査は、4月21日（火）に理解を含め実施されます。現在の取組成果が具体的に表れることを期待するとともに、今後も教育に関する検証改善サイクルを行い、改善状況等の把握と成果をもとにしつつ新たな課題を踏まえた取組を行っていきます。

問題の解答

◇小学校算数 知識・理解に関する問題

=量と測定=

趣旨

体積の単位（1㎤）と測定について理解しているかどうかをみる。

■解答（40㎤）

◇中学校数学 活用に関する問題

=数学的な見方や考え方=

【解答】

設問（1）の証明から、 $\triangle ABC \cong \triangle ACE$ であり、合同な図形の対応する角は等しいから、 $\angle DAE$ を求めるためには、 $\angle DAB$ がわかればよい。

$\triangle ABD$ は $BD = AD$ の二等辺三角形なので、

$$\angle DAB = \angle ABD$$

$\triangle ABC$ は $AB = AC$ の二等辺三角形なので、

$$\angle ABD = \frac{180 \text{度} - \angle BAC}{2}$$

$$= 35 \text{度}$$

よって

$$\angle DAE = 110 \text{度} - 2 \times 35 \text{度}$$

$$= 40 \text{度}$$

したがって、「40（度）」になる。

■解答（40度）

お問い合わせ

朝来市教育委員会 学校教育課

677-2115